

【資料1】

平成28年度 佐賀市立久保泉小学校 学校評価計画

1 学校教育目標
元氣あふれる学校 ～夢をもち進んで学ぶ、心やさしい子どもの育成～

2 学校経営ビジョン
(めざす児童像)「夢をもち進んで学ぶ、心やさしい子」 ○かっこいい子 ・意欲を持って学習に取り組み、確かな学力を身につけた子 ・自分の考えを表現できる子 ・家庭学習や読書の習慣が身につけている子 ○やさしい子 ・思いやりの心を持ち、友だちとなかよく活動する子 ・よいことを進んでする子 ・きまりやマナーを守る子 ○たくましい子 ・めあてをもって最後までがんばる子 ・元気に気持ちよいあいさつができる子 ・健康で安全な生活を実践できる子 (めざす学校像)「今日に満足し、明日を楽しみに待つ学校」 ・子どもの学ぶ意欲を高め、学力の向上をめざす学校 ・子どもの自主的な活動を促し、がんばりを認める学校 ・子どものよさを見つけて称賛し、自己肯定感を高める学校 (めざす教師像)「たゆまぬ自己研鑽に励む教師」 ・子どもを温かく認め、ともに汗を流す教師 ・子どもの個性を見取り、一人ひとりのよさや持ち味を生かす教師 ・情熱と使命感を持ち、常に自己を磨く教師

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
1 雄飛学園教育を推進する。 ・開発的生徒指導(出番・役割・承認)を推進する。 ・幼保小連携や9年間を見通した小中連携を推進する。 2 学力向上を図る。 ・「雄飛学園メソッド」による9年間を見通した学習習慣の定着を図る。 ・算数科の授業実践を通じた校内研究の充実を図り、指導法の改善を図る。 3 命と人権教育を推進する。 ・一人ひとりの子ども理解と心の教育を充実させる。 ・支援を要する子どもへの校内体制を強化する。 4 3つの「あ」(あいさつ・あんぜん・ありがとう)の推進。 5 子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する。 ・活動や行事の中で子どもの出番を広げていく。	・前年度は「読書活動の充実」「雄飛学園構想に基づいた小中連携教育の推進」「人権教育の充実」「本年度の学校教育目標・経営ビジョン・重点目標の周知徹底」「危機管理体制の整備」において、学校として一定の成果をあげることができた。しかし、すべての児童や保護者の意識や行動を改善するまでには至っていない。また、「学習習慣の育成」「基本的生活習慣の育成」「特別支援教育の充実」など、それぞれに取り組み改善を図ったものの、まだまだ課題等があり、再度全職員で協議・検討・実践する必要がある。 ・学校評価として、取り組むべき評価項目が適正に評価されているかどうかを学校評価検討委員会で論議し検討した。プロジェクトとしての三部会や校務分掌担当者による実践状況の振り返り(成果や課題等)の報告を通して、教職員全体への周知徹底を行うことができた。また、評価項目についての総括を行い、その都度、改善や修正を行うことができた。保護者や児童のアンケートについては教職員全体で協議し、見直し等を行うことができた。また、併せて評価の妥当性を高めることもできた。 ・課題としては、学校教育目標の具現化を目指して、児童自らが意欲や課題を持って基礎学力や学習習慣を身に付けさせていく手立ての構築に努めていかなくてはならない。また、児童が自分の目標に向かって安全に安心して学んでいる教育環境の充実を図る必要性が求められる。

5 総括表					
① 学力向上を図る					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	●学力向上1	学力向上と学習習慣の定着	・児童一人ひとりが主体的に考えを表現し合い、学び合う小集団の中で思考をつなぎ、学力向上を図る方策を探る。 ・算数科で、市販テストの3分の1の単元で全員70点以上を目指す。	確かな学習部(研究主任)	・算数科を中心に、学習における見通しを持たせ、根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力の育成について校内研究を進め、互いの実践を交流する。 ・スキル習得のため、のびるタイムを充実させる。 ・「思考力」「表現力」育成のため、「すくすくテスト」を充実させる。 ・雄飛メソッドを推進させる。 ・ノート指導を徹底する。
教育活動	●学力向上2	読書活動の充実	・個人の貸し出し数を低学年120冊、中学年100冊、高学年80冊以上で、80%達成を目指す。また、家で読書をする習慣をつける。 ・「図書館活用のてびき」を活用する。	確かな学習部(図書館)	・読書活動を活性化させるイベントや企画、各教科との関連図書とのタイアップ活動を行う。 ・家庭と連携(まなざしカードや家庭学習)して、土・日の宿題に読書を入れる。 ・図書委員会の活動として、週末の読書実施について調査させ、実態を児童・保護者に広報する。 ・週に1回図書館に行く時間を設定する。 ・「図書館クイズ」の活用を呼びかける。
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICTを手段とした「わかる授業」の充実	・日常的にICT機器を活用した授業を展開し、児童の学習の理解度を80%達成を目指す。 ・教員のICT利活用指導力(教材研究、授業、児童、情報モラル)の向上を図るために年3回以上実践的な職員研修を実施する。	情報教育担当	・年2回児童・教員にICTを活用した授業の理解度についてのアンケートを実施する。 ・講師を招聘して「情報教育推進リーダー」を中心に、効果的なり活用法についての職員研修会を行う。

② 雄飛学園の教育を推進する					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○小中連携	雄飛学園構想に基づいた小中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学び部」「すこやかな育ち部」「豊かな心部」の3部会毎に、各校の担当者間の連携を深め、学力面と生活面、心情面の視点から合同の研修会や授業研究会を定期的に行ったり、学習習慣や規範意識を身につけさせる取組を行ったりして雄飛学園構想の基盤を強化する。 	教務	<ul style="list-style-type: none"> 雄飛メソッドに基づいて、学習習慣、規範意識の定着に向けて共通した取組を推進する。 学力向上、生活指導、教育相談、特別支援教育、人権・同和教育の各部会で、三校で情報交換をしたり、合同研修会を持ったりする。
③ 命と人権・同和教育を推進する					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	基本的な生活習慣の確立 体力の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> こまめに手を洗う習慣を身につけさせる。 はやね・早起き・朝ごはんの習慣化を図る。 	任すこ 養や 護か 教な 諭育 ち 食部 育(担 当)主	<ul style="list-style-type: none"> こまめに(20分休み・体育の後・昼休みの後・掃除の後など)手を洗う習慣を身につけさせるために、強化週間を設ける。 まなざしカードを使って、実態を把握し、リズムある生活を身につけさせるために、学級指導を行う。(学期に1回)
			<ul style="list-style-type: none"> すすんで楽しく運動する習慣を身につけさせる。 		<ul style="list-style-type: none"> マイペースマラソン、なわ跳び運動(短なわ、長なわ)を全校的に実施する期間を設ける。 自分の体について知る期間を設ける…健康フェスタ(仮称)
	●いじめ問題への対応	人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 人権意識の向上をめざす。 全児童及び教職員が、「いじめのない学校を創る」という基本認識を持つ。 	権豊 ・か 同な 心 教部 育へ 担人	<ul style="list-style-type: none"> 月1回全校で参加体験型の人権教室を開く。 人権週間を12月に設定して人権学習を行い、意識を向上させる。 いじめアンケートの結果を職員で共通理解しながら該当児童やクラスへの指導に生かす。
●心の教育	特別支援教育の充実 (支援体制強化)	特別支援対象児童の共通理解と支援体制強化	別支 か な 心 教部 育(担 当)特	<ul style="list-style-type: none"> 交流学級と連携を密に行う。 発達障害についての理解を深める研修を行う。 支援会議を計画的に開催する。 機会を設けて、保護者向けの研修会(講演会等)を開催する。 	
④ 子どもへのまなざし運動と市民性を育む教育を推進する					
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
教育活動	○特別活動1	児童会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 代表委員会で決めたことについて、一人ひとりが出番・役割を意識しながら意欲的に取り組むことができる。 	すこ や 活 か な 主 任 育 ち 部	<ul style="list-style-type: none"> 代表委員会でできたことについて運営委員が中心となって全校児童が活動しやすいように伝える。 議題箱の活用について、集会や放送で呼びかける。 一人一役の出番や役割を持たせ、頑張ったことを承認する。
	○特別活動2	環境教育の充実(環境ISO)	<ul style="list-style-type: none"> 90%以上の子どもが環境を守る行動をすることができる。 	部す (こ 環 や 境 か 教 育 担 当)ち	<ul style="list-style-type: none"> 環境委員が中心となって、各学年の毎週の取組状況を伝える。 学校での取り組みの様子を地域・家庭に機会ある毎に発信する。
	○地域連携	まなざし運動と市民性を育む教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 地域のまなざし運動と連携し、市民性を育む教育(総合的な学習の時間を中心にして)を充実することによって、市民の一員としての意識の向上をめざす。 	教頭	<ul style="list-style-type: none"> 市民性を育む視点で地域の人・団体・施設と交流を密にし、考え方や生き方を学ぶ。 生活科・総合的な学習の時間では、まなざし運動を展開する地域の人・団体・施設と年に2回以上は連携する。(久保泉公民館、桂寿苑などの福祉施設、地域ボランティア団体、えひめあやめ保全会、J A青年部、長寿会等)

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	担当	具体的方策
学校運営	○学校経営方針の周知	本年度の学校教育目標・経営ビジョン・重点目標の周知徹底	・保護者、児童、教職員、学校評議員、地域の方々に周知徹底し、認知度95%以上をめざす。	校長 ・ 教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標を校内の目立つ所、各教室に掲示をし、意識の高揚に努めさせる。 ・児童には、全校朝会での校長講話や学級担任の話等で機会ある毎に知らせる。 ・保護者には、学校パンフレット、学校便り、ホームページ、PTA総会、学校評価アンケート、学校評価ダイジェスト版等で周知する。 ・教職員には、職員会議や三部会等での活動を通して共通理解を図る。 ・学校評議員の方へは、評議員会、学校便り、学校関係者評価のための資料提供等で周知する。 ・地域の方々には、学校便りやホームページ等で周知する。
教育活動	○危機管理体制	危機管理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・事故〇をめざす。 ・状況に応じて危機管理マニュアルの見直しを行い、実際の避難訓練を行う。 	豊かな心部 ・ 教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を密にして安全マップ等を刷新して活用する。 ・交通安全に向けて、自転車使用時のヘルメット着用率100%をめざす。 ・地震災害の避難マニュアルを点検し、避難訓練に生かす。 ・黄色い帽子と防犯ブザーの携行を一斉下校時にチェックし、全学級で指導する。

●は共通評価項目、○は独自評価項目